

奇品収集家倶楽部

【奇品（さひん）】＝すぐれたもの。
（出典：平凡社「普及版 字通」）

ようこそいらっしゃいました。当サロンの、世間にはいささか理解されがたいご趣味をお持ちの紳士たちが、自慢の逸品を持ち寄り披露する、大人の社交場です。

その性質故、会員の方からの紹介でないと入場できないことになっておりまして……なんと、あの方からのご紹介でしたか。あの方がお認めになったのであれば、相当の品をお持ちでいらしたのですね。後で拝見できるのが楽しみです。

それでは、品評会が始まるまで、こちらでしばしご歓談を……。

〔はじめに〕

このバックドロップでは、決めた設定によっては、登場人物が容易に倫理から外れた行動を取ったり犯罪行為に手を染めることになります。不快な表現や苦手な表現を避けられるよう、参加者間で事前によく話し合ってください。

〔アспект生成質問〕

- **奇品。** 私たちが熱烈な愛を注ぐ物品、もしくはジャンルはなんですか？ 例えば酒、煙草、骨董品、昆虫標本、トレーディングカードなどなど、世間的には道楽と扱われ、場合によっては大の大人が熱狂することに眉を顰める人もいるかもしれない内容です。
- **サロン。** 私たちが集まる場所はどこですか？ 紳士の集いを行うのは、それにふさわしい風格のある場所であるべきです。
- 〔自由アспект〕。好きに決めてください。

〔共同体への質問〕

- 私たちはお互いの本名や身分を明かさないため、特定のテーマに基づいたサロンネームを名乗っています。どんなテーマですか？（例えば鳥、酒、宝石、星など）
- サロンの場所を提供しているのは誰ですか？ もし管理者がいるとしたらどんな人でしょう？
- 奇品を得るために私たちがいつも苦労していることはなんですか？
- 私たちの活動をよく思わない人たちがいます。それはどんな人たちでしょうか？
- 集まりはどれくらいの頻度で、何時頃に開かれますか？

名前

モズ、カラス、フクロウ、ツバメ、ジン、ウォッカ、テキーラ、パーボン、アンバー、トルマリン、オニキス、ジャスパー、ベガ、フォーマルハウト、シリウス、アークトゥルス

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を（黒い左欄か、赤い右欄か）選ぶ。以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

私たちが愛する奇品が突如大ブームを巻き起こします。私たちのサロンに入会したいという声の方々から上がり、これまでの紹介制から少し入会基準を緩めようかという意見も出ています。門戸を開くべきでしょうか？ 反対する人がいるとしたら、それは誰ですか？

奇品の所持、または嗜むことに対して、あまりよろしくないものとする風潮が世間に広がりにつつあります。それはどうしてでしょうか？

その流れで世間体を気にして来なくなるメンバーも出始めています。彼らの様子を見て、どんな感想を抱きましたか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。

〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

奇品のブームはすっかり定着し、今や専門学校や子供向けコンテンツが作られるほどの勢いです。かつて隠れて密かに奇品を愛でてきた私たちには、にわかに信じがたい光景が目の前に広がっています。サロンにも新しい会員が増え、私たちが長年共有し培ってきたこだわりや価値観が伝わらない、理解されない局面が増えてきました。これまでのやり方を尊重しようとし新しい会員たちに、私たちはどう対処すべきでしょうか？

法律が変わり、奇品は持っているだけで処罰の対象となりました。摘発を恐れ、かなりのメンバーが離れてしまいました。もはや同じ場所でサロンを続けることすら危険かもしれません。

それでもなお、サロン存続を一番強く主張する者がいるとしたら、それは誰ですか？ 運営方針に変化が起きるとしたら、どんな変化ですか？

〔遺されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

会員は増えつづけ、頑なに古いスタイルを守る私たちはすっかり老害扱いです。世間の常識は新しいものの上書きされ、もはや私たちのほうが少数派どころか異端になったことをはっきりと自覚します。サロンの運営権限が私たちの手にあるうちに、決断しなければなりません。解散するか、運営を新たな世代に委ねしりぞくか。いずれにせよ、これまで愛してきた大切な場所は永遠に失われ、私たちの記憶の中だけの存在になります。私たちの奇品へのスタンスは、今後どうなっていくでしょうか？

誰かが密告したのでしょうか。私たちのサロンに捜査の手が近づいています。逮捕されれば私たちが愛した奇品たちは没収され、廃棄されてしまいます。逃げ延びたとしても、奇品を愛でて楽しむ日々はもう二度と戻らないでしょう。

最後の時を、私たちはどう迎えますか？

倶楽部 奇品 収集家

あかうさ
本文

たこすけ
制作協力

鮎方高明
編集

あかうさ
表紙

このバックドロップは、ロールプレイング・ゲーム『ダイアレクト』(Thorny Games)のアクセサリです。
『ダイアレクト』について興味がある方は、harrowhill.rdy.jpをご参照ください。

遊ぶにあたって、このバックドロップは自由にコピーしていただいて構いません。またクリエイティブ・コ
モンズ「表示-非営利-継承」ライセンス範囲内で自由にご利用いただけます。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja>

This backdrop and the covart is copyright 2023 by Akausa, X fka twitter,
id: akausan. *Dialect* is copyright 2017 by Thorny Games, LLC. All rights
are reserved. Japanese translation published by arrangement with Thorny
Games Publication. © 2020 by Harrow Hill.

